

## ものづくりのまち 和歌山 の実現に向けて



菊井さんの挑戦は、和歌山のものづくり業界に影響を与え始めています。「日本工芸産地博覧会」への出展を機に、オープンファクトリー(※)化の可能性を感じた菊井さんは、「和歌山全体のものづくりの魅力を発信したい」という思いを募らせるようになりました。和歌山には特色の違う様々なものづくり企業があり、それぞれがすばらしいワザを持ち合わせていると菊井さんは言います。蟻集まって樹を揺るがすの如く、各企業のワザを結集し、「産地としての和歌山」を盛り上げていくために菊井さんが始めたのが「和歌山ものづくり文化祭(もの文)」です。

「ものづくりの未来を創る、体験と学び」がテーマのもの文は、和歌山県北部のものづくり企業が一堂に会し、職人と直接話し、技を見て、そして体験できる場として2022年に初めて開催されました。和歌山のものづくりについて知ってもらう機会となったと同時に、出展した職人にとっては自社の技術レベルの高さに気付くきっかけとなり、自信とモチベーションの向上にも繋がったそうです。和歌山のものづくりのワザを広く知ってもらい、いつの日か「ものづくり = 和歌山」と言われるまで、菊井さんの挑戦はまだ続きます。

(※) オープンファクトリー：ものづくりの現場を公開したり、その工程を体験してもらうこと

「もの文」コラボ展示イベントを和歌山市民図書館で開催予定！  
詳細は11月イベントインフォメーションをご確認ください。



### 和歌山ものづくり文化祭 2023

日時 2023年12月2日(土)・3日(日) 10:00-17:00  
会場 和歌山城ホール

### 編集メンバーおすすめの一冊



#### 手仕事のはなし

阿部了/写真 阿部直美/文 河出書房新社

全国各地の職人たちの手により作られた「ものづくりの逸品」。その制作の現場を訪れた筆者が感じたことを書き上げたエッセイ本です。  
逸品をどのような思いで作り上げているのか、逸品の背景にある職人の息を感じられるでしょう。和 the をお読みいただき、ものづくりに少しでも興味を持った方にぜひ読んでいただきたい1冊です。

### 編集後記

今回は理美容師用鋏を作る会社を営みながら、和歌山のものづくり文化の発展を目指す菊井さん取材しました。取材で工場を訪れた際に鋏を見せていただいたのですが、鋏の2枚の刃の間のマイクロレベルの隙間が重要とのこと！理美容師の要望を聞きながら1本1本丁寧に作り上げる職人技に、息を呑んだ取材となりました。益々発展している菊井鋏製作所のワザのこれからが楽しみです。

さて、もの文は2023年冬に第2回目の開催が決まっています。それに先立ち、7月～8月の3日間にかけて和歌山市民図書館でイベントとして「ものづくり文化祭 2023 なつやすみファクトリー」を開催しました。図書館がものづくりの工房となった3日間、普段触れることのない、ものづくりの世界を体験した方々の興奮した姿をたくさん目にしました。

和歌山で定着しつつある「もの文」のムーブメントを、和歌山市民図書館はこれからも注目していきます！

## 和歌山市民図書館

WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

〒640-8202 和歌山県和歌山市屏風丁17番地

TEL: 073-432-0010

開館時間: 9:00～21:00

図書館の詳しい情報はこちらから

和 the バックナンバーは、図書館HPより  
ご覧いただけます



ホームページ



Instagram



facebook



12

2023.10.1発行  
TAKE FREE

ものづくりのまち  
和歌山をつくる  
Wakayama



取材協力：有限会社 菊井鋏製作所 菊井健一さん

和歌山市民図書館  
WAKAYAMA CIVIC LIBRARY



# 受け継いだワザの進化

2016年に事業継承した菊井さんは、受け継いだワザを伝承し、それを次世代に継承するために様々な取り組みを行っています。

## ワザを次世代につなげる



技術を継承していくためには、職人の育成が欠かせません。菊井さんは「ものづくりに興味のある若者」をターゲットに絞り、様々な方法で求人を探りました。その結果、平均年齢が40代で男性工員が中心だった工場に、新卒の女性工員が加わったそうです。また、働きやすい職場環境をつくることにも注力しており、女性工員の入社にあわせて工場に女性用トイレも新たに設置したのだとか。菊井さんはワザを次世代につなげる環境をしっかりと整えています。

## ワザは海外にもひろがる



事業継承時、国内での販路拡大に限界を感じていた菊井さんは、新たにアメリカへの進出にチャレンジしました。アメリカでは鋏を大切に使う文化が根付いていないようですが、アメリカの鋏の技術者に向け「日本の鋏」の良さをアピールすることで、アメリカからも注文が入るようになったとのこと。このチャレンジは日本国内のメディアでも広く取り上げられることとなり、結果として国内での販路拡大と知名度向上にも繋がったそうです。

## ワザは業界を超えた新たな挑戦へ



菊井さんは自社だけに留まらず、鋏業界を超えて「ものづくり」という領域で進化を創り出そうとしています。その転機となったのが2021年に初出展した「日本工芸産地博覧会」でした。各産地が自社だけでなくエリア全体で工芸品の魅力を発信しようとしていることを目の当たりにし、和歌山のものづくりのPR不足を実感したと言います。和歌山に戻った菊井さんは早速、和歌山のものづくりの魅力を発信するためにはどうすればいいのか、ものづくり仲間と相談したそうです。そうして菊井さんの新たな挑戦が始まったのです。

# ものづくり技術のワザを受け継ぐ

和歌山が誇るワザ(技・巧・匠)を発信する和歌山市民図書館フリーペーパー和the・Vol.12では、私たちが普段理美容室で髪を切るときに使われる鋏(ハサミ)にスポットを当てます。皆さんは和歌山に理美容室の鋏を製造する会社があることをご存じでしょうか。和歌山市小雑賀に工場を構える菊井鋏製作所では、1953年の創業以来理美容鋏を作り続けており、この鋏は有名ハリウッド俳優の整髪にも使われているのだとか。そんな菊井鋏製作所の現社長は2016年に28歳の若さで父親から事業継承され、鋏の技術の伝承と進化に取り組んでいます。そして今では自社の鋏だけに留まらず、ものづくり全体に裾野を広げ、その魅力を伝えようと尽力されています。

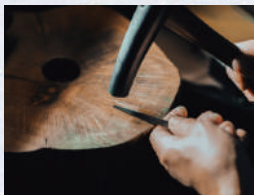
海外にも進出した和歌山発の鋏はいったいどのような鋏なのか、そしてそれを進化させている菊井さんはどのようなことに取り組んでいるのか。新しいものづくり文化を創る菊井さんのワザに迫ります。

## 菊井鋏製作所が誇る、鋏をつくるワザ



### —— 錆びない鋏を

理美容鋏は水気やパーマ液等の薬剤により、金属にとって過酷な環境下で使用されます。菊井鋏製作所では、絶対に錆びることがなく、切れ味が長続きする「コバルト基合金」を業界で初めて使用した鋏を1973年に開発し、今でもその技術を伝承しています。



### —— オーダーメイドで1人1人にあった鋏を

菊井鋏製作所では、完全オーダーメイドで鋏を製作しています。LINE等で理美容師と密接なコミュニケーションを取り、鋏に対するこだわりをヒアリング。1人1人のニーズに合った世界に1つだけの鋏を製作しています。

### 有限会社 菊井鋏製作所 菊井健一さん

1987年、祖父の代から続く美容鋏製造工場の家系の長男として生まれる。高校卒業後、京都大学工学部に入學。京都の土地柄、文化に触れるなかで、「祖父の代から続くものづくりの伝統の灯を絶やしたくない」という思いが強まり、大学卒業後すぐ有限会社菊井鋏製作所に入社。2016年、28歳で3代目として事業継承。2022年に和歌山ものづくり文化祭の発起人となり、これまで交流のなかった異業種の企業といっしょに「文化祭」というサードプレイスに挑み、新たな共創が生まれる土壌を育む場づくりに取り組んでいる。

